



# 子どもの森づくり通信

(発行:NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」  
フラグシップ園会報  
(2014年10月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264  
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



秋も深まり“どんぐり”の季節となりました。

活動で訪れた千葉県久留里の森では、たくさんの“どんぐり”が実っていました。(写真)

皆さんのところの“どんぐり”はいかがでしょうか。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーウェイブ」種拾い会活動レポート
  2. 「東北復興GW」テーマソングのダンスDVDが完成しました。
  3. JP子どもの森づくり運動「苗木を見に行く活動」レポート
  4. 事務局からのお知らせ
- どんぐり博士の育苗講座 2014～新シリーズ！野外活動の安全編②～

## ■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

## ■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

## ■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会
- (順不同) (社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C 富良野自然塾
- (社)日本森林インストラクター協会 NPO法人自然体験活動推進協議会
- NPO法人MORIMORI ネットワーク (社)日本オート・キャンプ協会
- (株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部 保育環境研究所ギビングツリー



## 1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーウェイブ」種拾い会活動レポート

○皆様と共に進めてまいりました、JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」(「東北復興GW」)の第一回目の植樹会が、今年の5月に岩手県山田町において実施され、130本の苗木が森に仮植えされました。現在、被災地の緑の復興に活かされる出番を待って、すくすく育っています。

○そして、今年も東北の五つの保育園の子どもたちが、皆様にお届けする“どんぐり”を一生懸命拾って事務局スタッフに手渡してくれました。どんぐりは、既に活動参加園にお送りしました。そんな子どもたちの活動風景をお届けしますので、是非、今年も元気な苗木に育てていただければと思います。なお、「東北復興GW」における山田町での植樹活動は、第1期として2014年から3年間継続されますので、今年お届けする“どんぐり”が第1期としては最終のものとなります。

### ■岩手県奥州市「駒形保育園」

○日時:2014年10月9日(木) ○場所:岩手県奥州市「見分森公園」 ○参加園児:年長児45名



### ■宮城県仙台市「バンビの森保育園」

○日時:2014年10月17日(金) ○場所:「岩沼グリーンピア」 ○参加園児:年中児、年長児合計43名



### ■岩手県山田町「山田町第一保育所」「豊間根保育園」「織笠保育園」

○日時:2014年10月22日(水) ○場所:「陸中海岸青少年自然の家」もより ○参加園児:年中児、年長児合計62名



## 2. 「東北復興GW」テーマソングのダンスDVDが完成しました。

JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイ」のテーマソング「♪どんぐりえがお」のダンスDVDが完成しました。「♪どんぐりえがお」は、「東北復興GW」の活動に参加している幼稚園・保育園の子どもたちがどんぐりの絆でつながり、共生の心を育んでくれることを願って作られた歌です。今回のダンスDVDは、そんな活動や願いを子どもたちにダンスで体感してもらうことを目的に作成されました。フラグシップ園には全園お届けします。保育の現場でご活用いただければ幸いです。

\* DVDメニュー: ①どんぐりえがおダンス ②どんぐりえがおダンス(ガイド付き) ③「東北復興GW」第1回植樹会レポート



## 3. JP子どもの森づくり運動「苗木を見に行く活動」レポート

### ■千葉県「今井保育園」

- ・日時: 2014年10月17日(金) ・場所: 千葉県久留里の森 ・インストラクター: ドングリの会
- ・日本郵政グループ参加者: 日本郵政 広報部 小原さん ・特別ゲスト: どんぐりーず

今井保育園の年長さんたち26人が、2011年に先輩たちが植えたどんぐりの苗木を見に行きました。苗木のお世話をしてくれている「ドングリの会」の人たちの指導で、下草刈りや鹿の食害防止用の布を巻く作業を体験しました。作業が終わって集合場所に戻ったら、突然のサプライズ。「東北復興GW」のテーマソングを歌っている「どんぐりーず」の登場です。子どもたちは大興奮。みんなで「どんぐりえがおダンス」を踊りました。



### 3. 事務局からのお知らせ

JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の活動が、以下の二つのコンテストで評価されました。皆様とともに推進している活動です。活動が広がっている成果として共有いただくと幸いです。

#### 1)「第3回いきものにぎわい企業活動コンテスト」において「東北復興GW」が国土緑化推進機構理事長賞を受賞

同コンテストは、「2010年「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」の愛知県名古屋市開催を契機に「自然やいきものとの共生」に注目が集まり、日本の企業等による生物多様性の保全や持続的な利用等の実践活動が活性化したことに着目し、優れた実践活動を、継続的に顕彰し、広く内外に広報することによって活動のさらなる広がりを推進する表彰制度として創設」(コンテストホームページより)されたもので、企業の生物多様性保全の実践例を顕彰するものです。今回は、活動における協働企業:日本郵政グループさんがJP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の活動で公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞を受賞しました。

\* 詳細 ⇒<http://mizumidori.jp/ikimono-nigiwai/>

#### 2)「生物多様性アクション大賞2014」において「東北復興GW」がグリーンウェイブ賞を受賞

「生物多様性アクション大賞」は、「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が推進している「MY行動宣言 5つのアクション」を参考に、5つのアクションに即した活動を顕彰します。本賞は、全国各地で行われている5つのアクションに貢献する団体・個人の取り組みを表彰し、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化を目指すものです。「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発活動の一つとして、またCOP10で採択された「愛知目標」達成の一助として実施します。(同賞ホームページより) 今回は、JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の活動が、グリーンウェイブ賞を受賞しました。 \* 詳細 ⇒<https://5actions.jp/award/>

#### ●どんぐり博士の育苗講座2014～新シリーズ！野外活動の安全編②～

前回からスタートした安全編の2回目です。1回目では季節柄スズメバチについて少し触れました。ハチには他にも身近で危険を伴う種がいます。そこで、今回もハチについての話題を提供し、ハチとの安全な関係について考えてみたいと思います。どんぐり博士:河内和男(森林インストラクター)



○前回スズメバチの冬越しについて触れました。それを読んで、ではもう一つの有名なハチはどうなのだろうと疑問を持った方もいたのでは？ そんな方が結構いると勝手に決め込んで話を進めます。そうミツバチについても気になりますね。ミツバチは集団で巣の中に居て冬を越します。そのため巣は冬までに十分に大きく頑丈にしておく必要があり、巣作りは、冬が終わったからできるだけ早い時期に始めます。それが、4月下旬から5月に見られるミツバチの分封(ぶんぽう)(巣分かれ)です。新しい女王蜂が生まれれば、古い蜂たちは巣を明け渡し、新しい巣の場所を求めて集団で移動します。ものすごい数のミツバチが群れで飛び回り、休む際は女王蜂を守るため集団で球状にまとまるので、ニュースになったりします。また、分封のハチと人の集団が鉢合わせすると事故に繋がる恐れもあります。ミツバチはこの分封の時期から夏が特に注意の季節と言えますが、基本的におとなしく攻撃性の低いハチです。

○みなさんは、スズメバチや集団で飛ぶミツバチを目にしたらどう思いますか？ 人に危害を加える害虫とでしょうか？ しかし、スズメバチも含め、ハチは人間の身近な自然(生態系)にとって無くてはならない生き物です。さらに、農作物の受粉や害虫駆除などをする益虫として、人はハチと共に暮らしてきました。

○見た目をどぎつい黄色と黒の縞模様にして、危険を教えてくれる生物は多くありません。ハチからのメッセージを素直に受け取り、近づかず、攻撃しないように心がけていれば、自然界の隣人として上手く付き合っていけるのでは無いでしょうか。危険は排除するだけでなく、危険との距離感や関わりを考えながら活動する。ハチとの関係からそのような危険への対処も見えてきます。とは言えハチは怖いものです、次回も引き続きハチの話題とし、具体的な対処法について考えてみます。